



オランダ長期研修報告

～①ハウス内複合環境制御技術について～



写真1 PTC+(農業研修センター)の施設園芸に関する研修棟

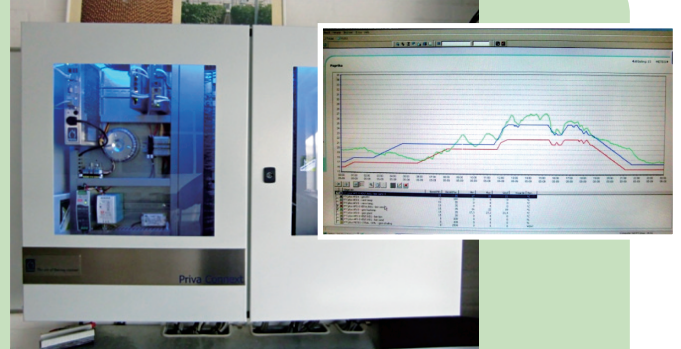


写真2 Priva社の環境制御コンピュータと制御ソフト(PrivaOffice)の操作画面



写真3 採光性・気密性の高い高軒高ハウス (Venlo-type)



写真4 トマト農家の栽培風景

施設園芸において高い生産技術を有するオランダの栽培管理技術（統合環境制御技術）を習得するため、春と秋の合計3ヵ月間、南東部の町、Ede-wageningenにあるPTC+（農業研修センター）で研修を受けました。

オランダの園芸農業を見ると『大規模ハウス』や『最新機器』などが目につきますが、高収量の要因はこのような設備の発展に頼ったものだけではなく、農家が栽培品種の特性を十分に理解し、状況に応じて植物の生育をコントロールするための『環境制御技術』の発展も大きく寄与しています。オランダでは『植物生理』に応じた栽培が最も重要とされており、農家が、研究機関や企業とともに植物の環境に対する反応について様々な側面から調査・研究をしてい

ます。植物がストレスを感じると光合成量は低下するため、収量を高めるにはストレスの要因となっている環境を生育に最も適した状態にする必要があります。このため温度、湿度、炭酸ガス濃度、給液管理などを効率的に制御するための様々な設備が開発されてきました。

オランダのような高生産を日本で実現するためには、高性能な設備を導入するだけでなく、これらの設備を使いこなすための植物生理や地域の気象に対応した管理技術が非常に重要となります。

当センターでは高知県に適応した環境制御技術の確立を目指し、既存型ハウスや高軒高ハウスでの環境制御技術の開発に取り組んでいます。

（施設野菜担当 橋田祐二 088-863-4918）